

記 念 誌

昭和35年3月10日



大阪市立泉尾東小学校

目次

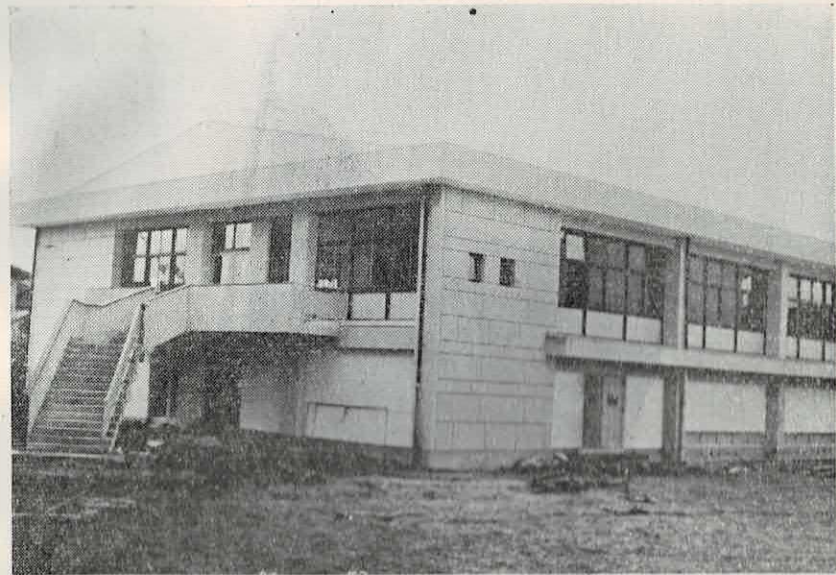
校旗・校歌	矢尾 鴻	一
新講堂・旧講堂写真	浅野 藤太郎	二
講堂落成式を迎えて	西本 嗣	三
講堂落成に思う	小郷 健二	五
講堂落成を慶ぶ	和爾俊二郎	七
お礼あいさつ	三浦源太郎	九
母校講堂落成を祝う	南本 松蔵	一一
明治時代の校下	杉本 茂春	一三
祝 辞	中北 悟	一五
大正時代の思い出	川端 直正	一六
回想		一七
木津川口千本松風景		一八
私たちの郷土		二〇
本校沿革の大要		二一
歴代校長		二二
本校の現況		二三
現職員・事務員・校務員の現状		二四
講堂建設委員名簿		二五
講堂落成記念事業		二六
PTA役員名簿		二七
昭和三十四年度PTA予算額		二八
記録しておきたいことども		三〇
		三一

入江幸次郎



校歌

- 一、大阪の富のみなもと
校章の稲うるわしく
ああわれら育つよここに
泉尾東 泉尾東
なつかしい母校
- 二、大正の町の先がけ
木津川の流れとともに
ああわれら伸びるよここに
泉尾東 泉尾東
なつかしい母校
- 三、伝統の進取の気性
進みゆく世に遅れじと
ああわれら学ぶよここに
泉尾東 泉尾東
なつかしい母校



竣工なった新講堂



旧講堂



講堂落成式を迎えて

大阪市立泉尾東小学校長 矢尾 鴻

ふくいくと香る梅花の便りを聞く一九六〇年の新春の今日、多数の善意の結晶として我が大阪市立泉尾東小学校の講堂並に体育館が美事に竣工されました。

憶えば本校が明治八年四月、学制施行と共に当地区初等教育の殿堂として発足してより、昭和三十年四月創立八十周年を迎え、更に今日に至るまでの幾星霜、送り出した方を数える幾多の卒業生の心に残る校舎講堂も年を経るにつれ、度々の天災地異、加うるに戦災の洗礼を蒙り、其の汚損甚だしく何時の日にか「我々の母校を、講堂の再建を」と切望されて参りました。校下各位、卒業生、在校生の熱烈な悲願に係当局を動かすに至り遂に今日の結実となつたものであります。

由緒ある講堂の改築、再建は情において忍び難いものがありましたが、在校する愛すべき多くの児童の安全と我が大正区の最も中心と自負する本校としては其の使命の重大さ、時代の進展に伴う教育の流れを考える時、只徒らに旧に捉はれず、情に溺れず「なすべきはなさざるを得ない」という決意を以つて校下一丸となつて此の事に邁進したのであります。

全ぼうを現はした講堂、体育館はステージ付き鉄骨鉄筋造りでありまして、その構想に於て、その床面積に於て実に威風堂

々たるものであります。

建築企劃としては全市唯一のもので他に其の比を見ず、将来大阪市に於ける此の種建築物の範として大正区の一劃に君臨することになりました。

勿論講堂である以上学校で行はれる各種挙式、行事に使用する事が目的ではありますが同時にまた体育館として可能な限りの施設をもち日常の体育指導に充分の活用をはかると共に、校下各種の集会、行事にも利用の途をひらき、校下文化の中心としての使命をも充分に果すべきである事はいうまでもない所であります。更に施設された放送設備は、斯界の粹を集め本校聴覚教育にも一大威力を加えた事も誇るにたるものであります。

本日ここに美事な成果を挙げ得た事は「言うに易く行うに難い」との古言を、如実に現はしたもので、今日の結果は一重に本校卒業生であります。現市会議員、浅野藤太郎氏の建設委員長としての御努力と共に、西本（前）小郷（現）両PTA会長を中心とする新旧役員各位の御尽力は申すまでもなく、在校生御父兄各位の一人一人の御熱意と校下有識者、各種団体、卒業生諸氏の物心両面に於ける強力な御協力と御支援に加え、工事担当者の誠意の賜と只々感謝あるのみであります。

最後にこの時に当り学校長として在職し凡く各位と共にこの盛典を迎える事の出来ました光栄と感激を不肖終生の榮譽と胸底に止め拙なき祝詞を擲筆致します。

略歴

- 一、昭和六年より現在まで 大阪府市会議員
- 一、昭和二十九年六月 大阪市会議長
- 一、昭和二十九年十一月 欧米各国視察のため歴訪
- 一、昭和三十一年六月 大阪市会議長
- 一、昭和三十一年十一月 藍綬褒章を賜わる
- 一、昭和三十二年五月 欧洲アフリカ東南アジア歴訪



講堂落成に思う

泉尾東小学校講堂建設委員長 浅野藤太郎

母校は誰もがもつ心の故郷であり言葉には言い表わせない懐しさと親しさを感じるのであります。殊に講堂は学校の心の中心に存在するシンボリックなものであります。その講堂がこのたび、建設され、しかも本市でも稀れにみる漸新的なもので、皆様方と喜びを同じくするものであります。これが落成されるにつきましては不肖私も微力ながら市当局に強く働きかけ、これが実現に努めてまいりました。くわえて一致団結した地元の皆様方の熱意と強力且つ献身的な後押しがあつたればこそと、今更ながら感謝しています。八十年の歴史を誇る泉尾東小学校も、講堂が建設され一段と新らしさを増し、日々に知的な面にも情操的な面にも、新たな理念で教育の実が推進されていくことを信じ喜びに堪えません。

母校の思い出

私はこの学校に大正初期学びました。随分と古い昔話になりますが、当時の校名は、木津川尋常高等小学校といい木造二階建て二階と堤防の高さが同じでありました。敷地は堤防下五メートルで石垣を築いてわずかに地盛りがしてあり、周囲には溝がめぐらしてあつたようにおぼえています。又かこいのない寒々しい講堂兼雨天体操場も現位置のところにありまして、風雨の強い時は中まで吹き込んで困つたこともありました。

正門前の道路には塙の並木があつて秋には紅葉が水田に照り映えて美しく、附近に十家ばかりの家が点在し今想像もされない実に豊かな田園風景でありました。今は地名だけ残っていますが、木津川の堤には千本松があつて、青々とした緑の一線が伸びそれは天の橋立より美しい景色であつたように思います。今の鶴町は汐干狩に興じたところで、学校から鶴町はおろが、今の築港のあたりが一目で見渡せたものであります。

当時の校長先生は宮田先生で、度の強い近眼鏡をかけ、カイゼルひげをはやし詰襟服に身を固めた誠に謹直そのものといった典型的な先生でした。担任の先生とは、よく連れだつて蛙取りや、魚取りに興じたことも懐しく、唱歌の時間廊下に立たされた事など、懐しさがこみあげてくるものであります。

講堂と地域

約五十年前の追憶から現在に至るまで、母校を中心に地域は年々発展し美しいのどかな田園風景が市内唯一の工業地帯と変遷しました。その変遷ふりは誠に目を見はるばかりの速さでありました。この隆盛ぶりも、日に日に教育の効果をより能率的にするよう工夫された先生方と、皆様の絶大なる御努力の成果と、衷心より感謝、敬意を表するものであります。

尚将来母校の無限の発展と地域の繁栄はすべてこの講堂が願の「カナメ」としての役目を果し益々発展するものと信じます。



講堂落成を慶ぶ

泉尾東小学校講堂建設副委員長 西 本 嗣

昭和六年泉尾第一尋常高等小学校卒業
前泉尾東小学校PTA会長

小学校は誰もが持つてゐる心のふるさとであります。長じて再びその門を潜る時、何人も母の乳房に似た感触が五体に触れるのを覚える事と存じます。それは階級も貧富もない天真爛漫な幼少時代の楽しかつた思い出であり、常に正しく優しくあつた恩師の面影でありましょう。戦後の渾沌たる世にあつて、これは將に一服の清涼剤であり、又我が心を写す鏡でもありました。

何人もこの純真な神に近い心を常に心とするならば、恐らく豊かにして平和な世界を生み出す事が出来るでしよう。今日の春間に於ける色々な社会問題も、人々はこの心のふるさとを訪ね、つらつら幼なかりし日の明かるく、清く正しい心を喚起するならば総て解決し得ると称しても過言では無いと思います。しかしそれには人の心のふるさとであり、地域社会に深く根ざしている小学校は常に良く社会に先進し次代の社会人を育てるに相応しい環境の整備拡充が為されなければなりません。とりわけその中でも子供達の文化の殿堂、地域文化の殿堂として明かるい雰囲気を持った講堂こそ誰もが望む所であり必要欠くべからざるものでありましょう。これは此処に喋々申す迄もなく校下全員の認める所であり、年来の夢であり宿望で御座いまし

た。が其の道は険しく、その望みが達せられぬまま、数年を経て参りました。

然し本日ここに年来の宿願が達成され夢に見た落成祝賀が現実、盛大に開かれる運びと相成りました。この美しい講堂、体育祭の偉容こそは吾が校下の団結の強固を示すものであり、校運の隆昌を永遠に象徴するものであります。既に申し下げる迄も無く、この講堂体育館は大阪が誇る近代建築の粋を集めたものであり、市内でも類例を見ないもので御座います。擬て本日此処にこの偉容を仰ぎ見る迄には多数の方々の物心両面の並々な御援助のある事を人々相互に知らねばならないと存じます。即ち市議浅野先生を委員長に組織されました建設委員各位の緻密にして周到な御計画と御活躍、加うるに市建築課並びに大正区役所各位の御指導、校下各種団体、有志各位及びPTA会員諸氏の御理解ある精神的、物質的御協力、一方学校長はじめ諸先生方の御協力と、斯の様に官庁及び校下を挙げて一つ目標に渾然融合し相和し相助け邁進致しました賜でありましょう。この由緒ある講堂体育館が社会に有為な人材育成の場として永遠に不滅の光を放ち、又地域社会の文化の殿堂として貢献せしめる事こそ協力者各位への報恩の道と考えます。最後に本事業に御協力賜りました各位に対し満腔の敬意と感謝を捧げ、吾が泉尾東小学校の隆昌を祈念致しまして粗辞乍ら私の挨拶と致します。



お礼あいやつ

泉尾東小学校PTA会長 小郷 健二

八十有余年の輝かしい伝統を持つ我が、泉尾東小学校に適した講堂並に体育館の建設を希うことは、私達年来の宿望でありましたが、此の度、この願が実を結び、本日茲に斯くも多数の来賓各位の御臨席を得て盛大に落成の式典が挙行されるに至りましたことは、誠にお目出たい極みでございます。私達の喜びはこれに過ぐるものではなく、整美されたこの講堂並に体育館こそ、我が泉尾東小学校の校運の隆昌を象徴しているものと信ずるものでありまして、皆様方と共に、御同慶にたえないところであります。

既に皆様方、御存知の通りこの講堂並に体育館は、我が大阪市に於て他に類例を見ることの出来ないものでありまして、その構想に於て、その設備に於て実に、近代学校建築の粋をあつめて、造られたものであると言つても決して過言ではないと思ふものであります。擬、この大事業が立派に成就完成をみるに至りましたことにつきましては、各方面の各位から絶大なる御支援と、御協力を賜つてゐることをゆめにも忘れることは出来ないであります。即ち本校御卒業の市会議員、浅野藤太郎先生を委員長として、この大事業完遂を期して雄々しく発足、組織された建築委員会各位の献身的な御協力と緻密周到なる御計

画、非凡にして卓越せる御手腕と御識見、並に市建築課や大正区役所各位の御懇切なる御指導や御援助、校下各種団体の力強い御協力と、御支援を初め、校下有志各位の物心両面に於ける絶大なる御支援、我がPTA会員諸氏の力強い御協力、御支援御鞭達によるものでありまして、今更乍ら各位の献身的なる御労苦と、御声援に對しまして深甚なる敬意と感謝の意を表するものであります。次に本校の先生方におかれましては、相当長期に亘りましたこの工事期間中、学校長を中心として一致団結、よく児童の教育に盡精され、傍ら何かとこの事業に對し心からなる御協力を賜りましたことを、この機会に深く御礼申上げる次第であります。私達父兄側といたしましては、この立派なる講堂、並に体育館を建設賜りました御趣旨と御労苦を肝に銘じ、これの管理や設備の充実に意を用い、爾後、児童たちが直接の教育の場として、有意義に活用されることを、ひたすら希うものであります。

本日、この目出たい落成の式典を迎えるに當りまして、私達父兄は千何百かの子供たちと共に、心からなる感謝の誠を捧げると共に、この記念すべき由緒ある講堂並に体育館にて、教育された我が泉尾東小学校の児童が、将来、社会有為の人材として、国家に貢献する日の近きにあるを確く信じ、我が泉尾東小学校の校運の隆昌と、校下各意の御健勝と御多幸を祈念いたしまして誠に簡単乍ら私の御挨拶といたします。



大正四年泉尾第一尋常高等小学校卒業

母校講堂落成を祝う

大阪市助役 和爾俊二郎

母校の講堂が改築されて新しくなったことを聞いて、誠に慶祝に堪えない。新講堂は小学校の講堂としては大阪全市でも最も斬新なデザインを誇るものだという。聞くだけにうれしい。

この間私の二年先輩の浅野藤太郎氏から新講堂落成のうれしい話を承った。そしてその落成式も間近のことであつた。同氏は私から申すまでもなく二度も大阪市会議長をつとめられた市会の元老であるが、大阪市政上重要な役割をつとめられたから、常に母校のために色々とお苦勞いただいていることを私は誠に有難く思うのである。この紙面を借りて私は同窓生の一員として同氏に對し深甚の謝意を表したい。私もたまたま大阪市に奉職しているので母校のことについては、少なからず関心を寄せていることはいまでもない。

母校というものは、幾年経つても懐かしいものである。日頃は雑務に追われ忘れていても何かの折に話題となると半世紀も以前前が目の前に見るように生生と甦ってくる。高い土堤道から石の階段を降りると校門があつて校地は周囲に小さい堀を持つていた。素朴な田園の中の静かな環境にあつた。堤坊上に瀟々たる大木が並んでいて秋の瀟々紅葉は両側の水田にその姿を写し

て大変美しいものであった。当時の気候は今とは随分違っていた。冬は堀の水が固く結氷してその上を歩いたことも記憶している。従つて相当寒気が強かった。それでも私が在学中に雨天体操場と称して床は練瓦で木製の小屋組の上にスレートをふいた屋根とこれを支える鋳鉄製の柱で構成された構造物が出来た。壁はなく風は吹き通してあった。これが講堂にも利用されたわけである。式の時は風を防ぐため幕を張り廻らし移動ステージを持つて来た。冬でもわれわれは紺の着物に小倉の袴素足に遠草履の姿で校長先生の訓話を拝聴したが相当の忍耐が要求される一種の行に近いものであった。しかしわれわれは元気に勉強したし又全く頑健でもあった。当時のスバルタ式教育が懐しく悪い出される。

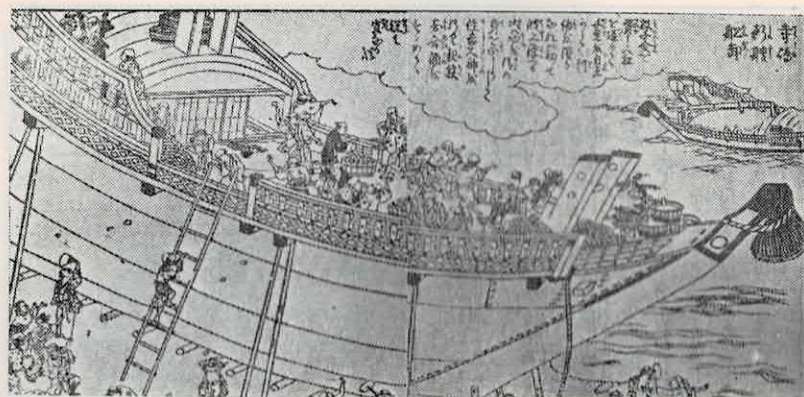
ともあれそれから半世紀、星移り月遷つて一九六〇年の今、幾多の変化の後立派な新講堂を持った母校はわれわれの在学当時とはその環境の変化とともに全く面目を一新した。水鼻ならした五十年前の紅顔の少年は今や頭髪霜を頂く初老となりながらやはり當時を思い出しつつ新講堂の落成をよろこぶ。施設に恵まれた当代の少年はそうでなかった時代のわれわれより更に勉学にいそしむであらうことを期待しつつ新講堂の落成を心から祝う次第である。

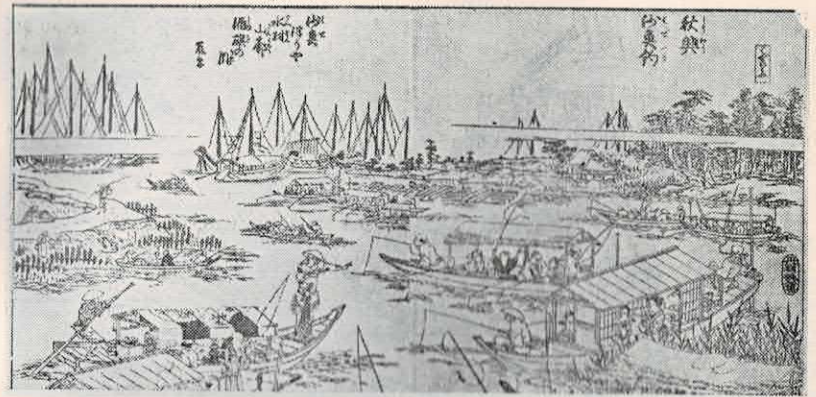
明治時代の校下

泉尾東児童委員長

三浦源太郎

了照寺の境内にあつた学校が、現在地に移転したのは、明治三十二年でした。木造二階建のこじんまりした校舎が田圃の中にぽつんと建っていました。学校前の道路は当時中堤と呼ばれ風水をふせぐ堤防になっていました。尻無川から泉尾浜通、北村、南泉尾町を経て、三軒家に到る半円形の現在道路が、その名残りであります。中堤の内側には小堤と呼ばれる土堤が縦横に走り、かんがい用の水路が小堤に沿つて流れていました。水は清澄で住民の飲料水にも利用されていました。これらの堤の上が道路になっていて、当時の生徒は筒袖のかすり、わらぞうり履きで、風呂敷をかかえて通学したものです。学生服を着ている姿は、ほとんど見受けられませんでした。教科書も四銭五厘だったと記憶しています。新聞紙をつづつたものに、よく習字をしたものです。





堤の下に学校がありましたので一階教室は足もとに見おろされました。春秋二回の遠足は竹皮の日の丸辨当で、肩からわき下に背負つて、喜び勇んで出発したものです。堤の下には二十戸余りの農家が点在していました。堤の中は水田と畑があり、「いろは」四十七文字の順に区割されていました。棉花の栽培も盛んでした。電燈はなく、暗いランプの下で読書したものです。すすのついたホヤをよく掃除させられました。中堤には、はぜの並木があり、秋には紅葉して両側の水田に照り映え、一層の美観を提しました。木津川堤には松原が続き、緑の樹間を純白の帆船が行き交い、カモメが河面に羽ばたく風景はさながら夢のようでした。今は地名だけです、千本松はその名残りであります。

しかしこれらの美しい田園風景も第一次大戦の重工業景観で、田畑が埋立てられ、堤が取り除かれ、代つて工場が立ち並び、堀が出来、貯木場となつて、自然の姿が一変したのは、大正時代にはいつてからのことであります。

田園風景の消失

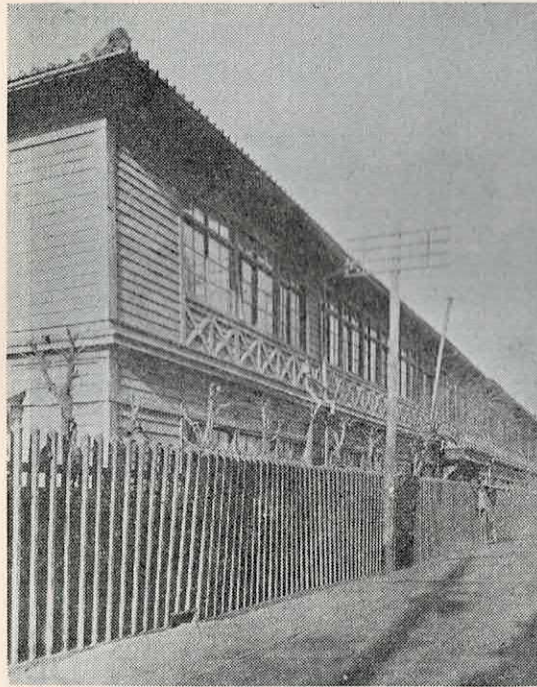
祝 辞

前大阪市立泉尾東小学校後援会長

南 本 松 蔵

顧みますと私が後援会長としてお世話になつておりました時は昭和の初期で、当時幼児教育の重大さを思い故中川好太郎氏と共に部内各位の衷心よりの御支援を得まして泉尾幼稚園の設立をみる事が出来ました。次に東側木造二階建校舎が老朽となりこれの改築に西山校長先生と共に関係

大正時代の校舎



当局に幾度お願いに参り校下皆様の御熱意により只今の鉄筋コンクリート三階造りの校舎が完成致しました。こうして当時に思いを馳せます時に改築事業の並々ならぬ事を痛感致します。老生の小学校時代は実に田園風景も美しく情緒豊かなものがありました。近代産業の発達と共に、自然の姿は一変し近代化された今この学校と其の周辺をみましては、我が故郷の面影もなく一驚するばかりです。今後児童教育の殿堂として校下文化の中心として益々御発展の程をお祈りして擲筆致します。

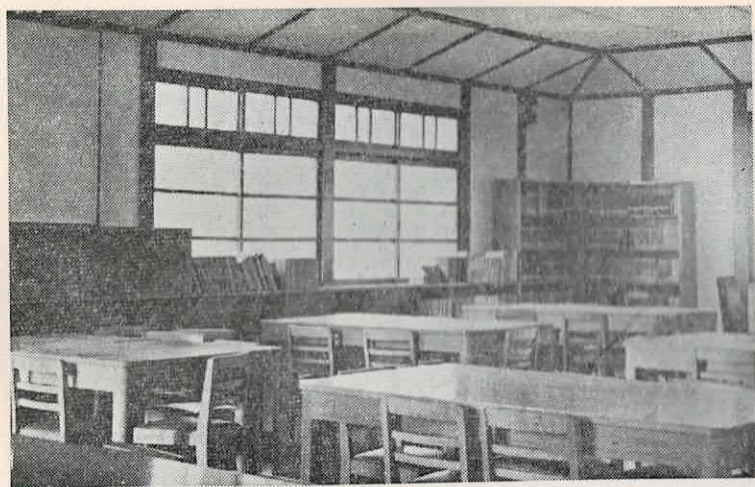
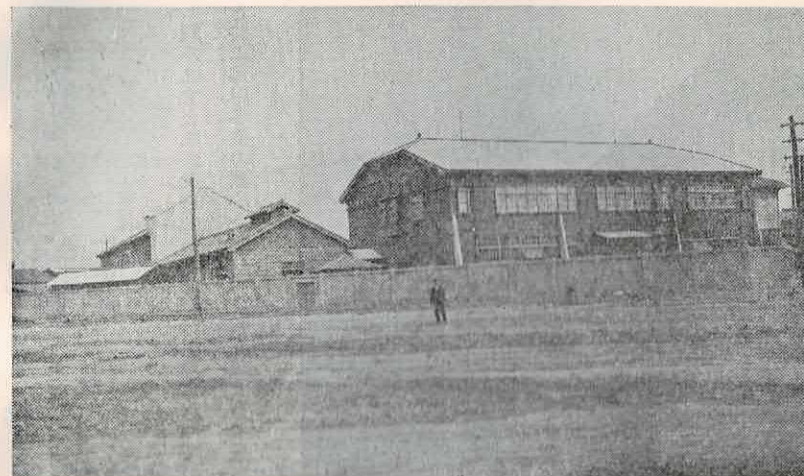


図 書 館 内 部

回想致しまして私が学級委員として御厄介になりましたのは二十三年の秋で、今日に至るまでの此の長い間には悲喜交々色々の事がありました。土方会長の頃にプール敷地の買収が決定、助島会長の第一年に旧講堂の大修理完了。第二年にプールが竣工いたしました。私が会長当時創立八十周年記念事業の一環として旧警防会館を修復して図書館を設置し、ジャンゲルジム、攀登棒等の運動具を新設し記念植樹も行いました。御父兄方の切望する千島町電停の信号燈の設置をみたのもその頃でした。図書館は折角五十万円を投じて一応設備も整いましたにも拘らず、五年という実に短い運命に終りましたが、発展的解消という所に準ずるものとして其の間よく重責を果たしたものと感慨一入深いものがあります。今日のこの大きな喜びを故加島、河本両先生の御霊に御報告申上げて私の回想の記と致します。

前大阪市立泉尾東小学校PTA会長

中 北 悟



昭和初期の校舎

大正時代の思い出

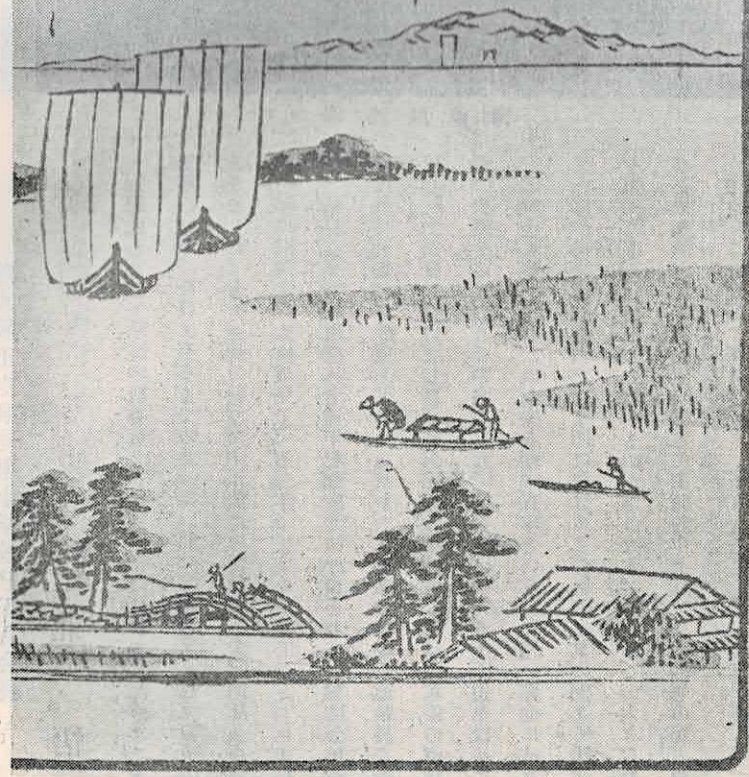
大正十三年度泉尾第一尋常高等小学校六年卒業生

医学博士 杉 本 茂 春

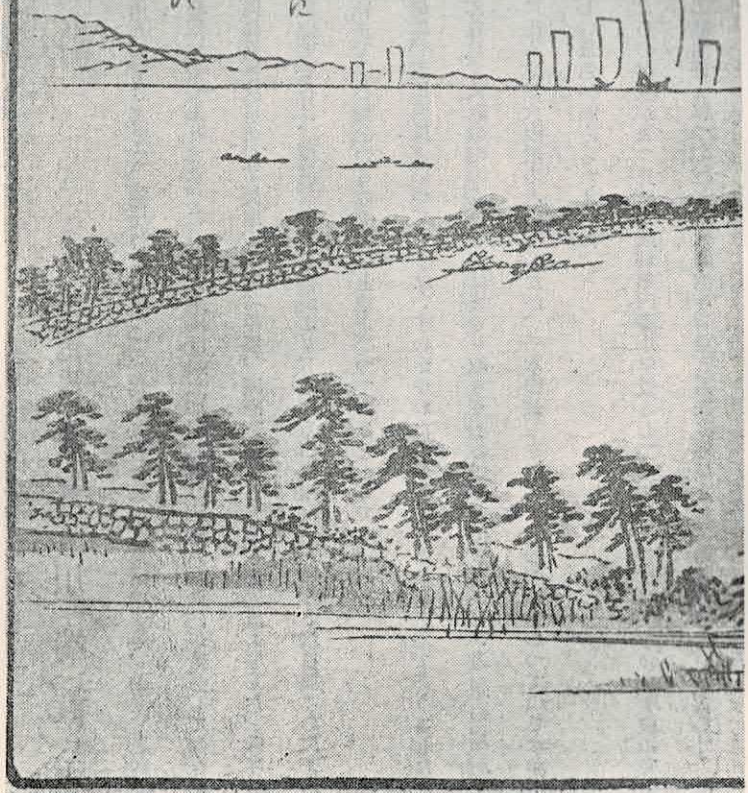
大正八年から大正十四年までお世話になりました。欧州大戦のあと、繁栄の第一歩をふみ出した時期でしたので、貧しいながらも、活気のある環境で育てられました。学校の東に、ふのり干場があつて秋には「秋空晴れて気は清し」と歌いながら運動会をしました。西は永楽橋から千島町までずっと見渡せる草原で、のろろ走る市電が教室からながめられました。軽快なファンファールはなく、朝礼は勇ましいラッパ行進でした。新設の北恵加島へ去つて行く友達列が、千島町の堤をこえて行くのを、手をふり見送つたのは、四年生の初夏でした。晝休みに遊びほうけて、始業の鐘も知らず、松尾先生に叱られたこと、名物加古、両角、こわい関根、久世、美人の正富、寺島、太つた大谷、園城寺の先生方がなつかしい。校長は今堀新、PTAには中川好太郎、衣田音次郎諸氏がいました。

木津川口

此所ハ浪花の津の湊口ナリ
諸国の海船出入の要津ニ
ナル故ニ廻舟の辦理ヨリ
一めを為去天徳二年
公の御仁恩ニ依テ長サ八重千
間余の石塘を築キ人足
石坂カミの水を引テ拖ヒキ蓄
諸般の出入を便ス
其方代不枯ナリ浪荒
船乗の基
公恩の程作人し等ふへ



又此堤の上小敷様の
松と植つぬる故
俗々木津川の十木松と
言フ
松原の風景ハ彼名カ
高き天の橋立三保の
松原より外ナリ
貴方々程ヲ雅俗ノ
舟行して遊観ス
平生不絶



私たちの郷土

大阪市史編集委員 川端直正

私たちの郷土大正区は木津川と尻無川とはさまれて、徳川時代になって、北の方三軒家から泉尾、千島、平尾、恩加島などだんだんと南の方に伸びていつた新田地帯であります。なかでも泉尾は泉北郡踞尾村の北村六右衛門が苦勞して築きあげた約二百六十年前の大新田で、ついで岡島嘉平次によつて炭屋、千島、平尾、南恩加島などの新田が完成しました。昨年の伊勢湾台風でもわかるように海岸近くの低いところは、津波などの被害があり、私たちの先祖はいろいろと堤を築くのにも苦勞をしました。こうした苦難に打ち勝つていまでは心配のいらぬ立派な土地となつてゐるところです。

川にかこまれた砂地の土地であるために、新田西瓜といつて、うまいすいかやわたの名産地であつた土地でありましたが、ことに尻無川の沿岸は沢山のはぜが植えられ、大阪の町の人たちがはまぐり取りやしおいがりにきた楽しい遊樂の場所でした。また木津川は諸国の船がにぎやかに出入する大阪港の入口でしたが、千本松渡しを越えて造船所の賑わつてゐる木津川河畔は、天の橋立にも劣らないような美しい景色が眺められました。

明治になつて小学校が出来た時、私たちの学校がまつ先に西成郡第四番小学校として生まれましたが、その後学校の發展とともに地域もだんだんと農村の姿から工業地帯と移つて行き、大阪港を背負う重要な地域として發展してまいりました。電車が出来たり、バスが縦横に動いたり、今日の盛時をみるまでには、もちろんいろいろ災害もあつて非常な苦勞を重ねてきまし

たが、常に大正区の中心的位置にある学校として、私たちの先輩の人たちが努力されてきたことは、決して忘れてはならないと思います。いまやこの立派な講堂の完成とともに、ますます大阪市の活動の根源地として将来のさちを期待し誓ひ合いたいと思います。

本校の沿革大要

明治 八年 四月四日本校創立す。大阪府管内第三中学区第二区第四番小学校と名称す。

明治 十一年 大阪府西成郡泉尾小学校と改称す。

明治三十一年 大阪市立木津川尋常小学校と改称す。

明治三十二年 九月泉尾スの割六百四十八番地（現在地）の新築校舎に移転す。

明治四十三年 修業二カ年の高等科を新設す。

大正 二年 大阪市泉尾第一尋常高等小学校と改称す。

大正 八年 小学校令改正により、尋常科に手工、高等科に外国語、図画、女子に家事科を新設し、大阪実業補習学校と改称す。

大正 十三年 泉尾家政女学校を設置す。

大正 十五年 校舎の南側に二階建一棟を増築す。

昭和 三年

高等科女子部を廃す。大正通、南泉尾町三軒家三丁目を本校校区とす。

昭和 九年

九月二十一日室戸台風のため校舎の一部を半壊せり。校庭約一米半、教室床上一米の侵水あり。十月一日より開校したが五年まで二部授業をする。

昭和 十二年

鉄筋コンクリート造三階建起工式を行う。

昭和 十四年

一月九日新校舎において授業を開始す。十一月二日、新築落成式を挙行す。

昭和 十六年

大阪市立泉尾東小学校と改称す。

昭和 十九年

九月十八日徳島県那賀郡立江町平島村今津村へ第一次集団疎開をす。

昭和 二十年

五月五日第二次疎開として石川県石川郡野々市町、松在町出城村、美川町に集団学童疎開をなす。十月十八日終戦のため疎開児童帰校す。

昭和 二十五年

「生活学習研究会」を開催し好評を博す。

昭和 二十六年

生活学習研究発表会を開催す。

昭和 二十八年

八月 プール建設なる。

昭和 三十年

三月児童図書館を旧警防会館を改築して完成す。

四月四日 八十周年記念式典を挙行す。

昭和 三十二年

二月二十六日「放送教育研究発表会」を開催す。

四月一日 平尾小学校が新設され、大正運河以南を分離す。

昭和三十三年

二月二十六日 講堂建設委員会設立さる。

昭和三十三年

四月一日 三軒家東小学校が新設され、大正通、南泉尾町、三軒家町の一部を分離す。

歴代校長

初代	明治二十六年九月	松田 示 秀	十三代	昭和二十六年九月	村上 素 治
二代	明治三十二年九月	須長 徳五郎	十四代	昭和二十九年四月	北田 信 治
三代	明治三十五年十二月	若林 常 順	十五代	昭和三十二年四月	矢尾 鴻
四代	明治三十九年十二月	宮田 伸三郎			
五代	大正七年十二月	今堀 新			
六代	昭和四年三月	西山 庸 平			
七代	昭和七年三月	山内 源 蔵			
八代	昭和十一年十二月	将積 房次郎			
九代	昭和十八年三月	西川 由太郎			
十代	昭和二十一年三月	藤井 一 良			
十一代	昭和二十二年三月	中田 請 一			
十二代	昭和二十三年五月	関屋 通之輔			

本校の現況

本校は先に平尾、三軒家東、両小学校の独立に伴い、校区の一部を分離したので、児童数は、年々減少する傾向にあります。昨年は一九一五名、昨年は一七二七名、本年は一五六五名というように減少をしております。昭和三十七年度には九百名程度の学校になる予定です。従つて教室にも余剰ができて、今年四月から特別教室も復活されることになりました。特別教室が復元され、諸施設が充実されて、昔の泉尾東校にかえる日も近いことでありましょう。そこで校舎並びに校地の概況を報告

致しますと、校地総面積一九七二坪、校舎延坪数六三〇坪

講堂延坪数一六七坪プール一六四坪となつています。さ

て光輝ある泉尾東校をあずかる職員は別表の通りであります。今明

すが、矢尾校長を中心として教育に邁進しています。

年度と基礎学力の向上を目ざして着実な努力を続けていま

すが、児童の態度も日を追つてよくなり、名実共に大正区

の泉尾東校たるために、猛進を続けています。

学 年	学 級 数	男 子 数	女 子 数	合 計 数
一	三	八六	六八	一五四
二	三	九〇	六二	一五二
三	三	九一	八二	一七三
四	七	一六三	一七二	三三五
五	七	一六七	一九六	三六三
六	八	二二五	一六六	三八一
合 計	三一	八二二	七四六	一五五八

現職員・事務員・校務員の現況

担任	氏名	赴任年月日	担任	氏名	赴任年月日	担任	氏名	赴任年月日		
校長	矢尾 鴻	昭32・4・1	奥田 稔	昭30・4・1	五の七	伏原 道夫	昭27・3・16	校務員	松浦 重	昭34・6・1
教頭	入江幸次郎	昭29・3・31	岡崎千栄子	昭25・3・31	六の一	岡本 豊顯	昭28・10・16	宝満 登	昭29・9・12	
一の一	西垣 綱夫	昭27・11・1	千頭 忠広	昭25・1・5	六の二	田中 昇	昭28・9・1	松田徳次郎	昭30・2・16	
一の二	今西 幸子	昭33・4・1	沼井 英子	昭31・4・16	六の三	吉田 正明	昭28・10・16	中村 貢	昭28・10・16	
一の三	石井 壽美	昭32・4・1	今橋 一枝	昭26・10・3	六の四	堀田 幾子	昭21・7・31	永木俊一郎		
二の一	清水 雅子	昭29・6・16	馬場 尚吾	昭23・8・31	六の五	佐藤 忠彦	昭29・4・1	小野 猛		
二の二	一ノ瀬重雄	昭24・3・31	古賀五久男	昭29・4・1	六の六	上田 哲也	昭28・11・16	西尾 正子		
二の三	大浦 桃	昭30・5・1	後藤 哲也	昭27・11・16	六の七	佐野 輝	昭28・3・31	中野タケ子	昭33・10・1	
三の一	米田 和子	昭29・9・1	七条美智子	昭27・4・1	六の八	西中 隆	昭31・4・1	深江ツヤ子	昭33・10・1	
三の二	増田 露	昭26・2・1	倉橋 信治	昭28・4・1	事務	中田 請一	昭22・4・1	大本 文子	昭33・10・1	
三の三	金津 峯子	昭30・4・1	富田 啓介	昭30・4・1	書記	辻 公子	昭33・7・1	酒井タツ子	昭33・10・1	
四の一	山根 伶子	昭33・4・1	吉田 和民	昭27・11・1	養護	吉本 竹子	昭24・6・1			

講堂建設委員名簿

(アイウエオ順)

○建設委員長

浅野藤太郎

建設副委員長

西本 嗣

○顧問

三浦源太郎

山下 与助

横山 栄吉

○常任委員

中北 悟

酒井 京一

小郷 健二

耕高 誠治

櫻坂 修一

水谷 敏子

竹内 美江

中村千代恵

野勢 幹男

矢尾 鴻

○委員

有本 義一

家村 迪子

池内 辰見

伊藤カズエ

伊藤 景子

今野 末

岩寺 初枝

岩元 正子

上田藤太郎

戎谷 白治

大河 光子

大西 茂吉

岡田 貞雄

岡野志都香

小名三九男

笠原 法慎

加島 正治

加藤安太郎

勝目ます子

神川 リユ

河本 栄子

北島 正中

衣田音次郎

木原 九市

木村 晃

久保 芳助

河野 和一

小西 良平

木花 又雄

小林 登

坂田 英雄

雑喉屋昭治郎

佐々木清造

佐藤 静次

塩谷 照男

白川 融芳

杉本 士郎

住田作次郎

瀬田 基枝

瀬戸 彦次

竹内 亀

竹源 政治

田中 初枝

田中利喜三

辻村 金作

津田 博

寸口 義雄

直江 貞江

中井 綱吉

永木俊一郎

長嶋 春吉

永野 唯雄

中納 久吉

中村市太郎

中村 隆男

中 茂

池田 早苗

田川ふみ江

島田 良二

佐伯 芳弘

久瀬芳三郎

川西 定子

柿根 勝子

大岡政五郎

伊藤 末一

伊藤 景子

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

伊藤 末一

講堂落成記念事業

放送設備

六拾七万円

家具一切(演壇、児童腰掛、会議室)

参拾七万円

綴帳、窓幕

参拾四万五千円

床油と掃除機

四万円

倉庫

拾参万九千円

講堂正面額(額ぶち含む)

八万円(予定)

校歌制定

参万円

足洗場とマツト

十万円(予定)

整地と植樹

十万円(予定)

落成式(記念品、記念誌雑費)

参拾万円(予定)

スポット

五万円(予定)

以上は二月十日現在の報告であります。右項目中で予定とありますのは予算のことであり、この金額以内で完成致します。

千島東南 高木 成子 吉田 初美 小林 中 乾 政子 松村千鶴子
 平尾住宅 井崎みどり 今枝 静枝 小林 東 中村 藤子 羽山ななえ

昭和三十四年度 P・T・A 予算額

A 一般事業事務費		一 事務費	会議費 表彰費	九四、〇〇〇円
			需要費 P・T・A連絡費	七七、〇〇〇円
		二 会員活動費	集金費 成人教育費 調査研究費	一六、〇〇〇円
			広報費 厚生費 慶弔費	一九、〇〇〇円
		三 児童福祉費	褒賞費 校外指導費 援後費	六〇、〇〇〇円
		四 教授費	教授用備品と消耗費及び修繕料	三二六、〇〇〇円
		五 維持費	光熱水費 燃料費 維持用備品と修繕費 通信運搬費	二八、〇〇〇円
			教職員費 学芸奨励費	二一〇、〇〇〇円
		六 教育奨励費	学校連絡費 補助活動費	一八〇、〇〇〇円
		八 施設補助費	土地費 建物費	一三〇、〇〇〇円
B 校費補助費				六〇、〇〇〇円
C 教育事業奨励費				一一〇〇、〇〇〇円
		総額		一一〇〇、〇〇〇円

記録しておきたいことも

教 頭 入江幸次郎

講堂が落成されるまでをふり返つて是非書き残しておきたいことを綴つて本校沿革史の一ページにしたいと思う。
 「講堂建設の経緯」

大正年間に建てられた旧講堂は設計が幼稚で中央に二本の大きな柱があり、行事の際には実に困つていた。このことは単に学校だけでなく校下の諸行事の際にもいえることであつた。その上に三十余年の歳月の間に土台が傾き危険建物となりつつあつたことは事実である。こんなわけで講堂で改築はここ数年來の校下をあげての宿願となつていた。

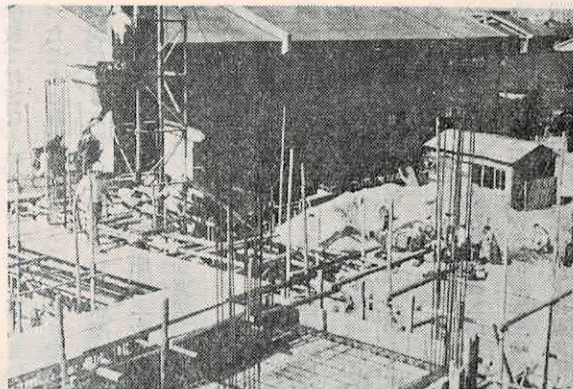
「現状からみた講堂建設という事業」

ところが大阪市の現状（昭和三十四年頃）はどうだろう。児童数が終戦後ピークに達した年次で市当局としては校舎の建設に主力が注がれているという実状である。従つて講堂の改築は実はせいたくに属する事業であるといえる位である。本校の講堂が大阪市建設第一号であるということの特筆しておく

「建設委員会が設立されるについて」

昭和三十三年度のPTA会長に西本嗣氏が就任されるについてはPTAは言うに及ばず校下を挙げて講堂改築達成という意味が含まれていた。西本氏もそのことは心に深く期するところあり就任されたのであつた。会長就任以来二年間多忙の中を建設一途に献身的な努力をされた。そのことについては具体的に書くことはできないが、それだけに西本会長の苦しみと力量を忘れてはならない。

本校にとつて市会議員浅野藤太郎先生の存在は実に大きい。この度の講堂建設事業は言うに及ばず平素から何くれとなく大きな力となつて頂いている浅野先生は本校の卒業生であり、先生と本校とは言はば血のつながりであるともいえるのである。浅野先生と共に現大正区長竹下義重先生が地元と市当局に果して頂いた業績はここに特筆大書しなければならない。



「記念誌発行と記念文庫」

歴史はわれわれの進むべき道を実例をもつて教えてくれる。この記念誌もこのような趣旨にもとづくものである。さて編集に当たってみると余りにも資料の乏しいのに驚いた。それは敗戦という悲しい爪あとのためであろう。

記念事業の一環として記念文庫を加えて頂いて本校の歴史に関することもとて凡て納めることにした。明治時代からの教科書や、学校沿革史の資料などを後世に伝え趣旨を活かしたいと思う。

最後に、このめでたい時機に教頭として勤させて頂いた幸福を思い明日の泉尾東像を想いながら筆をおきます。なおこれをもつて編集後記にかえさせていただきます。

それにしても、これらの方を推し進めたのは校下が三浦源太郎老、山下日赤団長等を中心に地区がよくまとまり強力な校下であったからであり、一方PTAは代々の名会長のもとに実によくまとまっていたことである。

このような好諸条件がそろつて、日一日と建設の機は熟し、遂に昭和三十三年二月二十六日に建設委員会が設立されたのであった。

「落成式を迎えるについて」

PTA会則の示すところ会長は二年以上は許されない。そこで西本会長から小郷会長へと更迭されたのであった。小郷氏は健康を理由に固辞されたが衆目の一致するところであり遂に就任されたのである。小郷会長は就任のあいさつで「自分は講堂の落成式を完成するために……」と言明され、この大事業のしめくり役として自ら献身的な努力を傾けられた。小郷会長の積極的な実行力によつて建設資金のしめくりから、設備購入のしめくりまで一切が手際よく能率的に運ばれたのである。その間連日にわたり学校に足を運び責任者としてその責を果たして頂いたのであった。

記念誌

昭和三十五年三月五日 印刷

昭和三十五年三月十日 発行

編集 大阪市立泉尾東小学校
発行

大阪府大正区南泉尾町三ノ一三六

電話 〇〇八一番

